



1学期末考査始まる

7月9日(木)から1学期末考査が始まります。3科目を1日で実施した中間考査とは違い、今回は4日間で普通科1科目、理数科1科目の考査が実施されます。理科・公民・保健・家庭科は今回の考査だけで1学期の成績が確定することになります。時間が許す限り何度も試験範囲を復習し、1学期の学習内容を定着させましょう。特に中間考査で思うような成績を残せなかった人は、その分を補うための取り組みも必要です。1学期の成績には、普段の授業態度、課題提出状況、小テストへの取り組み等も反映されます。やり残していることはないか再度確認し、1学期の集大成としましょう。以下、高校の定期考査への取り組み方を紹介します。(出典: Benesse マナビジョン)

中学までの対策では通用しない! 高校式定期テスト成功術

●中学の定期テストとの違い: 科目数が増える!

中学の定期テストでは、英・数・国・理・社の5教科を勉強すればOKだったけど、高校ではその5教科がさらに細分化される。例えば国語なら、「現代文」「古典」などに分かれるため、テストの科目数が増えることになるんだ。

●中学の定期テストとの違い: テスト範囲が増える!

高校の授業は中学に比べてスピードが速く、それぞれの科目も密度が濃い内容になるため、テスト範囲もその分だけ広くなる。先輩のアンケートでは、中学に比べて、テスト範囲が約1.6倍も増えたという結果が出ている。

※進研ゼミ高1講座会員614人へのアンケート結果(2012年)より

高校の定期テストでは、科目数、テスト範囲が増えるため、中学のころと同じ対策では、高得点を取るのはだんだんと難しくなってくる。最初の定期テストから、高校式のテスト対策法を身につけることが肝心だ。

●高校式対策その1: テスト対策は2週間前から始めよう

中学の定期テストは一夜漬けで何とかなくても、科目数が多い高校では通用しない。高校の定期テスト対策は、少なくとも2週間前から勉強を始める学習スケジュールを立てよう。

<2週間前からやっておくこと>

ノート、問題集など、授業で使用したものをすべてを集めよう

授業で使用したすべてのものが、定期テストの出題範囲となる。教科書、問題集、授業ノートだけではなく、配布されたプリントや小テストについても、テスト範囲として対策しておこう。欠席した授業がある、ノートの内容に不安がある場合は、友達にコピーさせてもらうなどして、準備は抜かりなく。

ニガテ分野(問題)をチェックして、優先的に勉強しよう

教科書や問題集、プリントなどをざっと見て「理解できていない」「わからない」箇所を確認して、その部分に付せんを貼ったり、×印をつけるなどしてチェックしておこう。テスト対策として、その部分を優先して学習すると、直前になって焦らずに済む。2週間前は、わからない部分について教科書を読み直すなどの学習を重点的にしておこう。

<1週間前～直前までにやっておくこと>

テスト範囲をひと通り勉強して、うろ覚えの箇所をつぶす

テスト2週間前に、ニガテ分野やわからない箇所を優先して学習していたので、1週間前からは、テスト範囲すべての勉強を始めよう。わかっていたつもり、うろ覚えの箇所が出てくるかもしれないので、教科書の例題や、解くことができた問題もやり直してみるといいだろう。

暗記事項を繰り返し覚える

単語・イディオム・文法、公式、用語など、暗記事項は覚えるまで何度も繰り返そう。通学の電車の中や、夜寝る前など、時間を空けて反復学習を行うと、記憶が定着しやすくなる。

●高校式対策その2: テスト範囲の増加分はスキマ時間で補おう

中学のころに比べて、テスト範囲が増えた分、勉強に費やす時間もおのずと増える。その増加分は、時間を有効活用して補うようにしよう。通学中や休み時間、就寝前の時間など、「いつでも・どこでも」くらのつもりで取り組んでいこう。スキマ時間をうまく見つけて、コツコツと知識を定着させよう。

◆先輩のスキマ時間活用法◆

湯船につかりながら、スーパーの袋に油性ペンで書き込んだ英文を風呂の壁に張りつけて声に出して何回も読み、風呂から出たら、今度は覚えた英文をスペルミスをしないように書いて、何回も確認するようにしました。それによってテストで満点を取ることができました。

初めての全国模試

7月18日(土)に1年生は初めての本格的な対外模試である進研模試を受験します。全国の約40万人の高校1年生が受験する模試で、教科は国語・英語・数学の3教科で、各教科100点満点で実施されます。3年後の大学受験は高校入試とは違い県外の受験生との競争になります。自分の学力が全国レベルで見たときにどれくらいの位置にあるかという視点が大切になりますが、それを試せるよい機会でもあります。

大まかではありますが、九州大学レベルが300点満点中195点くらい、鹿児島大学レベルが150点くらい、国公立大学合格下限レベルが135点くらいです。結果は8月の末頃に返却されますが、ぜひ、自分の学力が全国レベルでどこに位置するのか確認してもらいたいと思います。

先日配布された「合格ライン2020」に、この春大学に合格した生徒の、大学・学部・学科毎の合格ラインが記載されています。自分が将来進学したいと考えている大学の「1年7月回」にある得点と偏差値(SS)を上回ることを今回の目標としてください。まだ大学研究が進んでいない人も、どのような大学や学部があるのかを知るための資料にもありますので、ぜひ目を通しましょう。

また、先日登録した「進研模試デジタルサービス」にも模試前後に利用できる学習機能があり、以下のようことができます。

模試前：知識確認動画の視聴

模試後：①記述力の診断（自分の記述力の傾向が分かり、弱点克服につながるトレーニングができる）

②結果を見る（紙の成績表より早く結果を確認でき、解説動画で重要ポイントを押さえられる）

高い意識をもって全国模試を受けることで、進路意識が高まり、学習に向かう姿勢も変わります。大いに模試を活用しましょう。

進路研究を深めよう

第一志望校に合格した人の多くは、早期に志望校を決定し、その学校に応じた準備を始めています。明確な目標を設定することは、学習の大きな動機づけとなります。志望校決定の第一歩である「適性の見極め」と「学力分析」のために、現在以下のようなものが利用できます。

- 1 「未来に向かって～進路の手引き」
- 2 「逆引き大学事典」
- 3 「合格ライン2020」
- 4 「進研模試デジタルサービス」
- 5 「夢ナビプログラム」※詳細は後日説明

更に、夏季休業中のオープンキャンパスへの参加を奨励します。例年7月から8月にかけては多くの学校でオープンキャンパスが開催されています。しかし、新型コロナウイルスの影響で今年はweb上でのオープンキャンパスや進学相談会の形になる大学等が多いです。詳細は各大学のホームページ上に掲載されますので、各大学のホームページもこまめにチェックしましょう。普段であれば遠くて行けないようなところもweb上では可能になります。

7～8月の学習のあり方

7月後半と8月後半は、当初予定されていた補習に代わり、正規の授業が行われますが、1・2年生は午前授業になる予定なので、夏休み期間と同様、午後の時間の使い方をよく考える必要があります。

この期間は、部活動、宿題、課題研究、とすることがたくさんありますが、それでもいつも以上に自由に使える時間は十分にあります。その時間を苦手な分野の克服や1学期の授業の復習、模試の振り返り等に充ててほしいと思います。

ちょっとした意識の差で、時間の過ごし方は随分違ってきます。毎日なんとなく過ごしていると何もしいまま夏が終わってしまいます。今までは異なる意識をもって時間を有効利用し、弱点を克服して、2学期に良いスタートをきりましょう！

進路指導部通信

舞鶴

1年生 7月号 鹿児島県立国分高等学校 [令和2年7月1日発行]

